

## 台風による豪雨

台風による豪雨が河川の氾濫や土砂災害などを引き起こし、甚大な被害をもたらすことがあります。平穏な生活は一変します。それでも人々は力を合わせて復旧、復興に取り組んできました。高知県佐川町と香川県小豆島町の例をお伝えします。

### ■昭和 50 年の台風 5 号（高知県佐川町）

昭和 50 年（1975）8 月 17 日 8 時 50 分頃、台風 5 号が宿毛市付近に上陸し、四国西岸をかすめた後、昼過ぎに伊予灘に抜けました。高知県中西部は集中豪雨に見舞われ、佐川町では最大 1 時間雨量が 108 ミリを記録しました。町では特に柳瀬川上流の尾川で鉄砲水が噴き出し、尾川川は奔放、松ノ木、古畑付近は田畑が砂礫に没し道路も寸断されました。尾川川の濁流は柳瀬川に架かる由留岐橋を流し柏原、岡崎、虎杖野から柳瀬、九反田、富士見町、西佐川にかけて一望の海となりました。佐川町の被害は死者 2 人、軽傷 40 人、床上浸水 644 戸、半壊 279 戸、流失 3 戸等に及びました。西山耕の災害之碑には、この台風で西山地区は 900 ミリを越す集中豪雨に見舞われ、大災害を受けたため、国の激甚災害法の適用を受け、県、町、地区民一体となって災害復旧に当たったことが記されています。<佐川町史編纂委員会編「佐川町史下巻」1981 年、西山耕の災害之碑の碑文>



### ■昭和 51 年の台風 17 号（香川県小豆島町）

昭和 51 年（1976）9 月 8 日～13 日、台風 17 号が九州南西海上に停滞する間に、香川県には南から湿った空気が流れ込み、県内各地は記録的な豪雨となりました。8 日～13 日の降雨量は内海町（現小豆島町）四望頂で 1,376 ミリに達しました。内海町では 11 日には急傾斜地が多い東部地域で山崩れ、河川の氾濫が起り、ついで神懸通り、西村地域で土石流が発生し、草壁本町、安田、馬木地区では床上浸水が続きました。内海町の被害は死者 7 人、重傷者 18 人、軽傷者 36 人、建物の全壊 127 戸、半壊 137 戸、床上浸水 1,543 戸、床下浸水 1,191 戸等に及びました。苗羽（のうま）の被災復興之碑には被害は甚大であったが、国、県、町の援助と地区住民挙げての努力により中筋川の改修等を行い、復興を成し遂げることができたと記されています。<内海町災害の記録編集委員会編「昭和 51 年 9 月台風 17 号による集中豪雨 1,400 ミリの爪跡」1977 年、苗羽の被災復興之碑の碑文など>

